

日本を支える

KANSAIモノづくり企業

118

大和化学工業(大阪市大正区)は、産業廃棄物のリサイクル装置などを手がける環境機器メーカー。廃液や汚泥を減圧環境下で脱水乾燥させる装置「滅」が国内200件の実績を持つなど、ニッポンな分野ながら高いシェアを誇る。最近では中国やタイに拠点を設けるなど海外展開にも意欲的だ。「現地化にこだわった製

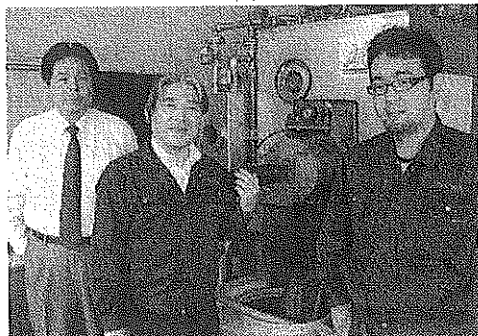
大和化学工業

品開発と、中小企業のス「ビード感」(土井潤一社長の武器に、販路拡大を急いでいる。同社はもとも、クリーニング店で使われる業務用ドライクリーニング機のメーカーだった。だが、1990年代初頭からクリーニング市場が縮小し始めたことや、オゾン層保護のため溶剤規制が強化されたことを受

け、クリーニング機から撤退した。その後、新たな事業として選んだのが環境機器の製造だった。活性炭吸着によるガス回収技術や、蒸留による汚水リサイクル技術など「クリーニング装置で得たノウハウ」(同)を生かし、産業廃棄物のリサイクル装置を製造。これまでに「滅」シリーズのほか、

環境機器「現地化」に活路

冷蔵庫の断熱材に含まれるフロン回収装置などを開発・販売してきた。国内で確固たる地盤を築いた同社が、次のステップに選んだのが中国や東南アジアなどの新興国市場だ。09年6月からタイで事業を開始し、10年4月には1号案件として、現地の食用油メーカーに廃水処理装置を納め



タイの現法は責任者以外は現地採用の予定...と土井社長(中央).....。同装置は日本からの輸出品ではなく、現地で部品を調達し、現地の協力工場で製造したもの。土井社長は「海外で装置

スタート。大口の受注はまだないが、11年1月に中国・香港と同・広東省に現地法人を設立するなど事業速度を上げていく。当面は(2)力国を軸に海外展開を進める方針だ。土井社長は、中小企業が海外ビジネスを成功させるためには「決裁権を持つ人間、中小企業なら社長が直接交渉にあたる

海外ビジネスはうまくいかない」と強調する。今後はタイにも現地法人を設立し、販売を強化する方針。現地責任者として二上滋執行役員を派遣し、残りのスタッフは現地で採用する考えだ。土井社長は「中国もタイも、早ければ2年で独立採算にのるようになりたい」と、早期自立を目指している。

▽社長 土井潤一氏▽
所在地 大阪市大正区南恩加島5の8の6、06
・6553・5673▽
従業員 26人▽製品 汚水処理装置▽URL 汚水処理装置▽www.daiwakagaku.co.jp

(火曜日掲載)

西日本